

ワクチンの生産・流通体制のあり方に関する論点

【ワクチン生産体制について】

- パンデミックが発生し、世界的に供給が不足するおそれがあるワクチンについては、国内の生産体制が確保されることが望ましいが、その他のワクチンについては、国内外を問わず、より良いワクチンがより低価格で供給されることが望ましいと考えられるが、いかがか。
- 安定供給及び価格競争の観点から、同種のワクチンが複数社から供給されることが望ましいと考えられるが、いかがか。

(現状)

- ・ 新型インフルエンザワクチン開発・生産体制整備事業により、新型インフルエンザの発生・流行時に必要なワクチンをより迅速に日本国内において生産・供給できる体制を整備しているところ。
- ・ 日本に導入されている輸入ワクチンは下記のとおり。
HPVワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、単独の不活化ポリオワクチン、成人用肺炎球菌ワクチン、B型肝炎ワクチン、ロタウイルスワクチン、黄熱ワクチン
- ・ 1社から供給されているワクチンは下記のとおり。
狂犬病ワクチン、A型肝炎ワクチン、単独の不活化ポリオワクチン、成人用肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチン、水痘ワクチン、黄熱ワクチン、BCGワクチンなど

【ワクチン流通体制について】

- ワクチンの安定供給・偏在防止の観点から、どのような流通体制が望ましいか。